

校歌 品詞分解と現代語訳

東雲さめる丘の上 春の光のみつるとき
 明け方を呼び覚ます丘の上に春の光がいぼいになるとき

信もて集う若人ば 呼びや希望と愛のうたに
 信仰心を持って集まると若者が希望と愛のうたを謳っている

マロニエ並木 落葉して 梢に高き北斗星
 マロニエ並木の葉が落ちて、(葉がいついなり) 枝から見える高い位置にある 北斗星は

真理の門を叩けやい 寸さやく如く またにきぬ
 真理の門を叩きなさいと寸さやくように瞬いた。

三三 南英の学舎に 愛の教えの帯をしめ
 ニニイギリスの南の学校で 愛の教えの帯を締め、

舟頭語 もろ 国人の友として 行くべき道に究めなん
 その土地に住むたさんの人を友として、自分の進むべき道を奥深い所まで 究めよう

世界の平和 成らんとす 栄光とわにあればと
 世界の平和が叶ったようになるとき、 栄光が永遠にありますようにと

副詞 ともに いたえん わが母校 立教英国学院
 一緒に祝福しよう 私達の母校、立教英国学院のことと

立教英国学院校歌の研究と鑑賞

品詞分解と現代語に直訳した紙はPDFとして添付しました。助詞の見分け方がよくわからなかったため、とりあえず、全ての助詞は青いペンで線を引くだけにしています。一部、副詞などにも青ペンを使っておりますが、助詞でないのに青ペンを使ったものは四角く囲ってあります。緑色は動詞で、赤色が助動詞です。

1. 歌詞の解釈

PDFの方にも書いたのですが、こちらにはもう少し意識したものを書こうと思います。（ここはあまり上手に訳せてないので、呼び飛ばしてもらって結構です。。）

夜明けを呼び覚ました朝、丘の頂上が春の光でいっぱいになるとき、信仰心を持って集まった若者が希望と愛の歌をみんなで歌っている。

葉が落ちて裸になったマロニエ並木の枝から見える高い位置にある北斗星は「心理の門をたたきなさい」とささやくように瞬いた。

イギリス南部にある学舎で、愛の教えを忘れずに、そこに住むたくさんの人を友として自分の進むべき道を奥深くまで究めよう。

世界の平和が叶ったとき、栄光が永久にありますようにと、一緒に祝福しよう。私たちの母校、立教英国学院を。

2. 英語の歌詞と比較

英語の歌詞は普通に読むには難しく、電子辞書を駆使しながら読みました。読み終えたあとに思ったことなのですが、英語の歌詞のほうが意味を捉えるにあたって、分かりやすいような気がしました。日本版の歌詞よりさらに深い気がします。

Atop our hill, dawn's breaking: Let us greet the sun

All the world now seems bathed in the fresh light of spring.

ある春の日の夜明けごろ、山の頂上から顔を出した太陽の光が世界を暖かく包み込んでいる情景がここで思い浮かびます。そして、その太陽にあいさつをしようと歌詞にあります。春は命の芽吹き of the 時期、物事の始まりの時期だと前の学校の宗教の授業で学びました。まさに、この歌詞は何かの始まりを表しているように思えます。もしかしたら、これはただの日の光を指しているのではなく、神様そのものをたとえているのではないのでしょうか。

Voices young are raised in song, In the truth hearts are one
Ever seeking faith and hope, and love above all

この歌詞から若者たちは愛と希望の歌を謳っているのではなく、信仰と希望、そしてなにより愛を求めて声をあげているのではないかと思います。

The chestnut trees in a row, Autumn's falling leaves
High above the treetops there
The North Star shines bright
Is it whispering to us now, twinkling all the while?
"Knock ye at the Gate of Truth Opened it shall be!"

情景は日本語の歌詞より、より鮮明に見える気がします。4行目で「あの北斗星はきらきら光りながら私たちにささやいているのだろうか？」とあります。日本語版だとそのように疑問形にはなっておらず、ここは異なる点だと感じました。

最後の言葉は、おそらくですが、聖書からの一文だと推測します。

Here in Southern England stands
Midst the hills, our school,
Day by day, it is girding us with precepts of love and binding us in
friendship
With men of all lands to search and find the way we should go

個人的な感想なのですが、四行目の表現の仕方がとても好きでした。ここでも、日本語版と違うと思ったことがあります。ここでは最後「友と一緒にこれから自分たちが行くべき道を探して見つけるために」となっています。一人で究めるのではなく、愛の教えと友情で結ばれた「友」と一緒に道を見つけて進んでいく、決して一人だけで歩んでいるのではないのだ。そういう意味があるのだらうと、さらに理解が深まりました。

Then when peace does truly come to our world at last
Glory be in the highest
To our God forever
Then too we'll sing praises to our Alma Mater
To Rikkyo School in England
Our hearts will be true

"Alma Mater"という単語は今まで一度も聞いたことがなくて、はじめ、ラテン語か何かかと思ったのですが、「母校」という意味だそうです。特に、今の自分を形成するのに大きな影響を与えた出身校を指すときに使われるとあるウェブサイトで書いてありました。最後の"our hearts will be true"は確実に日本語の歌詞には入ってないです。これがどういう意味なのか気になって少し調べてみました。聖書には「true heart」について書かれた箇所はいくつかあるそうです

その中で新約聖書のエフェソの信徒への手紙という章の中にこんな言葉がありました。

For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God, not a result of works, so that no one may boast.

日本語版聖書だと次のようになっていました。

あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。

ここから考えたことなのですが、信仰心を持って、希望と愛を求め続けることにより、最後は救われるということをこの校歌は言いたいのではないのかと思いました。信じた者が救われる。だから英語の歌詞では、一人で道を究めるのではなく、「同じ信念を持つ友と一緒に自分たちの進むべき道を探す」という書き方がされていたのかなと思いました。

3. 聖書と照らし合わせ

三保先生が添付してくださった注釈付きの聖書と校歌を照らし合わせました。

「私は曙を呼び覚まそう」
→”東雲覚むる丘の上”に該当

「信仰と希望と愛、この三つはいつまでも残る」
→”信もて集う若人が 呼ぶや希望と愛の歌”に該当

「門をたたきなさい。そうすれば開かれる」
→”真理の門を叩け”に該当

「愛を身につけなさい」
→”愛の訓えの帯を締め”に該当

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」
「平和を実現する人は幸いである」
→”世界の平和成らんとき 栄光とわにあれかしと”に該当